



9月の下旬から朝晩涼しく感じられる日が増え、秋を感じられるようになりました。9月1日に父母の会奉仕作業として、保護者の皆様にプール撤去、園庭整備をしていただきました。9月10日から運動会に向けての活動を始めました。運動会は、運動・体力面の育ちだけでなく、集団で行動するという心も育む機会として捉えています。普段の保育では、得にくい仲間意識、集団だからこそ達成できる充実感などを体験し、後半の保育につなげていきたいと考えています。また、今年のテーマにそった種目を体験することで子ども自らが育つ機会にもしたいと思っています。

具体的には、年少児にとっては、本格的な運動会参加になります。種目も増え、集団で行動することにより自分中心から「みんなの中の私」として行動できることをとても期待しています。年中児はサブリーダーとして、年長児はリーダーとしてさらに自分を育ててほしいと願っています。いずれの年齢にしても運動会は、集団行動が求められます。運動会を境にして、子どもたちには精神的に大きく成長してほしいと思っています。そのためには、私たち保育者の力量が問われています。子どもとしっかり向き合い、人間対人間の関係を深めていく機会でもあります。保護者の皆さんの励まし、子どもたち一人一人の心の育ちにご理解をいただきますようお願いいたします。

先日、「ぽっぽくらぶ」に遊びに来られた親子を見て「あれ」と思ったことがあります。母親は赤ちゃんをカゴのようなものに寝かせて持って行かれました。恐らくカゴのようなものは車に乗せるためのベビーシートになる便利グッズかもしれませんが、私には違和感がありました。「なぜ、抱っこしてあげないのだろうか。あれでは赤ちゃんの表情が見えないのでは」という単純な疑問です。

園内研修の講師をお願いしている先生からこんな話を聞きました。「赤ちゃんは、授乳の時に授乳してくれている人の目をじっと見ている。生後10ヵ月を過ぎる頃になると、今度は口元をじっと見るようになる。それは、言葉を話す訓練をし始める。大人の口の動きを観察することで言葉を発する準備をしている。」というのです。私はすごいなと思いました。あんな小さな体で自ら育とうと努力していることに感動すら覚えます。自分のために食事を与えてくれている人をしっかり見つめている。この時に大人は見つめ返しているのだろうか思いました。目と目を合わせることで、大切な愛着行動だと思っています。赤ちゃんが目が合えば、大人は微笑むでしょう。大人が微笑めば赤ちゃんも微笑みます。また、赤ちゃんのミルクの飲み具合や体温など、普段と違うことにも早く気づくでしょう。スマホをいじりながら授乳している母親がいると聞いたことがあります。スマホ画面を見ていては、赤ちゃんとの大切な微笑み合いの機会も失われます。実は、乳児期の愛着関係の有無が、その後の赤ちゃんの成長に大きく関係するという研究成果が発表されています。大人の便利さを少し横に置いてしっかりと向き合ってほしいと思います。

それから、生後10ヵ月といえば、人見知りの時期に当たります。いつも決まって身近にいてくれる人とそうでない人を見分けることができる頃です。その時期にいつも授乳や食事を提供している人の声を出す時の唇の動き、形を見て、言葉を発するために唇や舌を上手に動かせるようになるれば、身近な大人からたくさんかけられていた言葉が赤ちゃんの口から聞かれるようになるでしょう。いつの間にかこんな言葉が言えるようになったのかと思うくらいにたくさんの言葉を話せるようになります。それには、言葉を話せない頃から赤ちゃんにたくさん言葉をかけてあげることです。身近な大人の愛情あふれる言葉が何よりのお手本ではないでしょうか。